

スペインにおける視覚障害者のための理学療法大学・ 大学病院・博物館視察報告

筑波技術大学保健科学部保健学科理学療法専攻

高橋 洋

要旨：スペインにおける視覚障害者のための理学療法大学を視察し本校との比較・検討をした。視察場所はスペイン、マドリードにある理学療法大学 (Escuela Universitaria de Fisioterapia de la ONCE)、視察校の臨床実習病院である LA PAS 大学病院、ONCE が運営する視覚障害者のための見て触れる美術館 TIFLOGICO, その他である。視察期間は 2006 年 2 月 21 日 - 2 月 27 日である。

キーワード：ONCE, EUF, 見て触れる美術館

1. スペインについて [1]

イベリヤ半島にありポルトガルと隣接するスペインの正式名はエスパーニャ王国といい、ピレネー山脈によりフランスと国境を隔てる。首都マドリードはスペインのほぼ中央に位置し東京とほぼ緯度を同じくし、東京に比べやや寒いように思える。人口は 4,319 万人 (2004 年)、公用語はスペイン語等である。文字はローマ字表記で若い人はかなり英語を話すように思われた。主宗教はカソリックである。

2. ONCE とは [2]

スペイン語で Organizacion Nacional de la Ciegos (ONCE、盲人の全国組織) といひ Spanish National Organization of the Blind の英訳になる。1938 年スペイン全土の数多くの小さな視覚障害者組織が集まって設立された非営利組織で経済的に自立している。組織の目的は教育・職業教育、リハビリテーション、補助機器製作・サービス、文化活動・レクリエーションである。会員数は 2003 年で 64,404 人である。主に独自の宝くじ販売を行っており、視覚以外の障害を持つ人も参加している。リハビリテーション活動として ONCE guide dog Foundation を運営しており、その訓練センターから毎年 100 頭を供給している。また補助具の使用による残された視力による最大能力の発揮を目的に補助具の開発をしている。視力障害の予防を目的とした活動として、遺伝に関するアドバイスサービスや国際研究や発展のための奨励金 300,000 ユーロを供出する。教育活動として 8,500 人の子供・青年を教育している。小学校を 5 校運営し今回訪れた理学療法大学の資金供出、職業教育までを行っている。職業訓練として電話交換、ピアノ調律と修理、マッサージ、旅行会社事務、ラジオ製作・アナウンサー、コンピューター速記、コンピューターネットワーク管理を行っている。また点字教育と膨大な点字資料の作成を行っている。

視覚障害者の雇用業種として主に ONCE 宝くじの販売

を行っている。その他 ONCE や他の組織で雇用する弁護士、経済学者、教師、理学療法士、ジャーナリスト、心理学者等がある。

ONCE の文化活動として、マドリードとバルセロナに点字図作成センターを、音楽と演劇のための劇場を保有する。また盲人の芸術家・彫刻家・作家・音楽家や歌手への援助を行っている。また今回視察した盲人のための博物館を持ち、プリント、点字、音声電子化された雑誌を発行している。ONCE ウェブへのアクセスが出来、音声を聞ける劇場とテレビを運営する。その他社会文化イベントとして各種文化的競技会、スポーツ活動、自然と文化地域へのアクセスの援助、ボランティアの組織化を行っている。

視覚補償・電子機器研究・発達と適用センターを運営している。宝くじ利益の 3% が ONCE 基金に入り、また他の障害者団体にも還元される。ONCE 基金を運営し雇用促進と訓練、障害の排除を行っている。ONCE は会社運営しており、従業員 17,736 人のうち 1,436 人が障害を持つ人である (2003 年)。ONCE の会員のうち就業可能年齢者の 92.5% が仕事を持っており、その中で 86% は ONCE で働いている (1998 年) [3]



図 1 宝くじ販売人



図2 ONCEの宝くじ販売所。バハラス空港にて

3. Escuela Universitaria de Fisioterapia de la ONCE (以下 EUF と略す) [4]

マドリッド自治大学組織の大学群の中の1つの大学であり、マドリッドに位置する。スペインで唯一の視覚障害者のための理学療法士養成の3年生の短大であり、経済的基盤はONCEから得ている。学位名は理学療法士である。教育目標として「神経疾患、外傷、リウマチ、心臓・呼吸器疾患、内部疾患、産婦人科疾患の治療で行われている最新の理論と実技・知識の習得。これらの知識は解剖学、生理学、病理学などを確実に身につけた上で形成される。」となっており、日本における理学療法教育と原則的な差はない。(図3) 大学本校短大部とEUFとの比較を表1に示す。



図3 EUFの正門(ONCEの理学療法学校、マドリッド自治大学と表記)

表1 学生数・教員数に関する本校とEUFとの比較

| | EUF | 筑波技術短期大学 |
|-----------------|--|--|
| 学生数 | 1年生 24名 2年生 20名 3年生 15名 計 59名 | 1年生 11名 2年生 12名 3年生 10名 計 33名 |
| 全盲学生 | 1割程 | なし |
| 教員 | 理学療法士8名(助手1名を含む) 物理学1名 解剖学1名 全盲教員1名 | 理学療法士7名(助手1名を含む) 整形外科医1名 内科医1名 全盲教員0名 |
| 学科専任教員 以外の教員 | 非常勤講師 (自治大学群から 20名程) | 他学科専任教員 非常勤講師 |

カリキュラム上で本校との教育内容の厳密な比較は出来ないが、科目名により本校と比較したEUFのカリキュラムをまとめると以下ようになる[5]。

- ・ 物理学が必修
- ・ 体育がない
- ・ 理学療法概論、リハビリテーション概論がない
- ・ 予防医学、健康医学がある
- ・ 日常生活動作がない
- ・ 地域理学療法学、生活環境論がない

本校との大きな違いに臨床実習がある。その違いを表2に示す。(表2) 授業風景を図4、図5に示す。

表2 本校とEUFとの臨床実習の違い

| | EUF | 筑波技術短期大学 |
|-----|---|--|
| 1年生 | 患者を学校で呼ぶ教員が治療 学生が視学 | 病院で1週間の見学 病院の理学療法士が指導者 |
| 2年生 | 患者を学校で呼ぶ教員が学生に教える学生が治療 学校の教員が指導者 | 病院で3週間の評価 病院の理学療法士が指導者 |
| 3年生 | ①LA PAZ大学病院 3回/週 午前中、通年 ②脊髄損傷の病院 (トレド)で2週間 病院の理学療法士が指導者 | ①病院で8週の評価・治療 ②病院で8週の評価・治療 病院の理学療法士が指導者 |



図4 2年生の臨床実習:スポーツ障害の理学療法



図5 3年生のパルペーション(触知)の授業:左に立っている教員

図書館は骨格標本を学生の自宅に貸し出せることが興味深かった。また重要な図書や音声テープのデジタル化を徐々に進めているとのことであった。

視覚補償の機器は本校のものが進んでいた。

卒後2年のコースがあり EUF 卒業者及び白内障者の入学できる。脊椎や周辺関節部の理論的基礎と実際を目標に、基礎的概念と治療の技術を学ぶ。」となっており徒手的な内容になっている。

4. LA PAZ 大学病院 [6]

LA PAZ とは平和という意味でスペイン最大の病院である。一般、整形外科、小児科、婦人科の4つの病院から構成される。(図6) いくつかの理学療法士養成施設から学生を受け入れており EUF の3年生も午前中週3回、通年実習をしている。(図7)

EUF の職員2人と一緒に訪問し、案内は2人の理学療法士がつき一人が英語で説明してくれた。(図8)



図6 LA PAZ 大学病院正面：EUF の校長の一人と障害補償職員



図7 実習中の EUF の3年生。患者は脳卒中



図8 左から病院 PT, EUF 職員、EUF 校長 (PT)、病院 PT, 小児科医師

リハビリテーションに関する施設は一般の運動療法室、小児運動療法室、心疾患運動療法室、物理療法室、水治療室等に分かれており、日本と大差はない。治療機器は型の古い物が多く設備も特に目新しい物はなかった。

5. 見て触れる博物館 TIFLOLOGICO7)

ONCE が運営する博物館で (1) 海外とスペインの建造物の模型を展示する部屋 (2) 視覚障害を持った芸術家の作品の部屋 (3) 視覚障害に関する機器、本と記録物、ONCE 宝くじの歴史を展示した視覚障害者の歴史の部屋よりなる。職員が説明し手で触ることが出来る模型や絵画が多く展示されている。(図9、10)

6. 考察

(1) 臨床実習の形態

EUF の1,2年の臨床実習は学校に患者を集め教員や学生が理学療法を行う。患者はボランティアで理学療法に対する報酬は取らない。これはここの独特なシステムであったが、報酬を伴わないものであったら、一定の約束の元でこのような形をとることは日本でも可能と思われる。この方法の利点は学生が臨床に慣れやすく何を勉強すれば良いかをつかみやすくなり動機が高まると考えられる。また教える側も臨床能力を試されるし、見当はずれな臨床の役に立たない授業をしなくなると考えられる。日本では医療行為が行われる施設での臨床実習のみであるので、それだけの内容と責任が要求される。またほとんどの学生が卒業後医療行為の行われる施設に就職するため学校から職場への

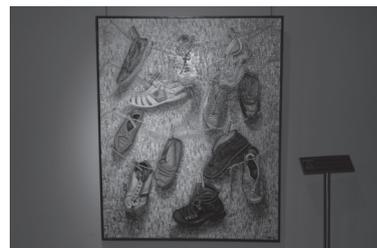


図9 立体的な触れる絵画



図10 サグラダファミリアの模型

移行がスムーズである。またいろいろな施設の運営形態や指導者と接することが出来るので学生が多くを体験できる利点がある。

(2) 教員数、カリキュラム

学生数に対する教員の数、学科以外の教員や非常勤数は本校がやや多い。本学は学科内及び学科外に専任医師がおりその点は充実していると思われる。

カリキュラムは本校と比べ実用的で実利的な科目を組んでおり、専門学校的である。本校は多様性があるがその代わり必修の科目が多いことにより学生の負担が大きい可能性がある。体育がないことは敷地の問題があるかもしれないが、運動能力を高めることは視覚の不利を補う可能性があり本校が優れていると考えられる。また EUF では予防医学、健康医学がある。日本の理学療法教育の中で欠けている分野であり、本校学生が進出する可能性のある分野の一つであると考えられる。

(3) 全盲学生在籍の差

理学療法（士）の訳は日本ではアメリカからリハビリテーションを導入した歴史により米語訳 Physical Therapy (Therapist) となる。スペインはヨーロッパ圏であり英訳 Physiotherapy (Therapist) となる。米国は運動療法や筋力強化等が重視され、ヨーロッパ圏ではテクニカルな徒手療法的なアプローチが重視される傾向があるように思われる。従って日本においては運動や動作分析が重視されるために、全盲の理学療法士は働きにくい傾向があると考えられる。イギリス系は徒手療法的な方法であるためダイナミックな動きを伴わない方法がとられ、手の触診能力が重要となるために、視覚に頼れない者は他の感覚を発達させることで有利なことがある。将来入学者の視覚障害の重度化が予想され、高齢者人口の増加により運動よりも身体調整を重点にした方がよいケースが増えると考えられることにより、本校はヨーロッパ系の教育体系を参考にして日本の現状に合わせた独自の教育体系を組むことを考えていく必要がある。

(4) ONCE の活動

ONCE の活動は多方面にわたっており、それが視覚障害者を中心とした障害者を主体として運営されている。19世紀に地方自治体と協会の財政状態が悪く救貧院や制度

などの福祉政策が不十分であったこと、及び世界大戦中のスペインの中立政策により視覚障害者の福祉や雇用を促進する必要がなかったことにより障害者自身が自衛するためにこのような組織が発達したと言われる [8]。官製でなく障害を持つ人の手により出来たため本当に必要な総合的な事業が行われており、その経済的基盤を支えるのは宝くじの独占事業である。視覚による行動範囲の狭さ、情報の少なさという不利が予想される中でこのような強大な組織を作ったことが驚異に値する。本校の学生教育の中で学生に対して無意識に限界を設けているのではないかと反省し、自分の意識のバリエーションを除くことが必要と感じた。

参考文献

- [1] 中田瑞穂編：地球の歩き方ポケット 16, 第4版, ダイヤモンド社, 東京, 2005.
- [2] Jose Ortega Gasset : A Lifetime Doing Better, ONCE Image and Communication Directorate, 2004.
- [3] ONCE: There's much more to this Cupon than meets the eye, 1998.
- [4] ONCE: GUIA DEL ALUMNO Junio 1997, ESCUELA UNIVERSITARIA DE FISIOTERAPIA DE LA O.N.C.E. 1997.
- [5] Escuela Universitaria De La ONCE : ESCUELA UNIVERSITARIA DE FISIOTERAPIA DE LA O.N.C.E. UNIVERSIDAD AUTONOMA DE MADRID, Madrid, 2005.
- [6] Hospital Universitario La Paz: MEMORIA 2003-2004, Madrid, 2006.
- [7] TIFLOGICO: The Museum where you can See and Touch, 2006.
- [8] Roberto Garvia: The professional blind in Spain, Work Employment and Society, Vol.10, No.3, pp.491-508, 1996.
- [9] 伊藤三千代：「スペインにおける障害者福祉政策と現状、筑波技術短期大学テクノレポート Vol.8 (2), 2001.
- [10] 伊藤三千代：「スペイン視覚障害者協会 (ONCE) にみるスペインの障害者福祉、筑波技術短期大学テクノレポート No.6, 1999.

Inspection Tour of University of Physical therapy for Visually Disabled Students, University Hospital and Museum in Spain

HIROSHI Takahashi

Course of Physical Therapy, Department of Health, Faculty of Health Sciences, Tsukuba University of Technology

Abstract: I have inspected the university of Physical Therapy for Visually Disabled Students in Spain and weighed the university with our university. Inspected facilities were University of Physical Therapy, LA PAS University Hospital, which accepted clinical intern students of the university, the museum in which visually disabled persons could see and touch and is managed by ONCE in Spain. Inspection length was February 21th to 27th, 2006.

Keywords: ONCE, EUF, Museum in which you can see and touch.

